＜自己評価1回目＞

補助事業者名	社会福祉法人栗駒峰寿会	事業項目名	特殊浴槽の整備

JKA補助事業　2026年度　自己評価書

補助事業の自己評価

作成日	2026	年	10	月	8	日	作成者	横屋　紀世一

(a)　個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画書の達成状況等を把握し、分析・評価してください。

					採点
(1) 受益者とそのニーズ	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	予定どおり、特殊浴槽を導入した。見積合わせもうまくいき、計画どおりに整備できたため、8月28日より使用している。				
実施計画・体制	機種選定、見積業者選定、見積決定、契約まで順調に進み納期も遅延なく無事に導入することができた。 事業の実施予定どおり、安全で安心した入浴サービスを提供している。				4
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(3) 達成目標 / 事業の実施結果	[達成値] 2026年8月	[達成状況] 100%	[具体的内容] 搬入ルート、配電盤、給水・給湯バルブ開閉など設置工事に関係する箇所を責任者が中心となり事前に確認を行い予定どおりの工期で完了できた。		4
事業の成果・波及	[達成値] 78名／月	[達成状況] 52%	[具体的内容] 当初は、利用者の現況から1日あたり6名(月150名)の利用を想定していたが、特殊浴槽の利用者が3名減となり目標達成に至らなかった。また、全体的に利用人数の減少がある。		1
(4) 広報計画 / 事業の実施結果	[達成値] 1. 1回 2. 0回	[達成状況] 1. 100% 2.　0%	[具体的内容] 1. 法人ホームページのトップに競輪バナー、補助事業バナーを掲載し、競輪補助事業完了のお知らせを掲載した。 2. 次回発行の広報誌に掲載する予定。		2
(5) 自己評価の体制	アンケートを実施し評価を行った。アンケート結果は法人ホームページに掲載した。				3

(b)　総合評価

総合評価点	3

●(a)個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

(1) 事業全体についての意見・所感	計画どおりに古い特殊浴槽と入れ替えることができ、途切れることなく安全で安心な入浴サービスを提供することができた。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	完了までに広報誌の掲載は間に合わなかった。広報誌の発行時期の確認を含め、補助事業全体を管理する者を配置することで改善できたと思われる。
(3)その他アピールしたい点是非知ってもらいたい点	搬送車のままスムーズにドッキングして入浴する特殊浴槽です。搬送車は、利用者の状態に合わせて背もたれの角度を4段階に調整でき肩までしっかり入浴できます。浴槽の縁も低いためコミュニケーションをとりながらの入浴ケアができます。広々とした浴槽でゆったり入浴でき、センター、サイドパネルで操作・安全確認ができるので介助者はゆとりを持って入浴ケアがおこなえます。

＜自己評価1回目＞

補助事業者名	社会福祉法人栗駒峰寿会	事業項目名	特殊浴槽の整備

JKA補助事業　2026年度　自己評価書

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

● 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に具体的にご記入ください。

● 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析

	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因	＊		(1) 経費	石油由来の原材料(ナフサなど)の価格不安定化のなか、当初の見積価格で導入できた。	
	＊		(2) 実施体制（人員、関係機関の協力等の確保）	特殊浴槽入れ替え工事に関して利用者・家族、介護支援専門員へ周知し協力を得られ、工事当日も利用を中止にすることなくできた。	
	＊		(3) 資材調達（事業実施に必要な物資等の確保）	石油由来の原材料(ナフサなど)の供給不安定化のなか、納期が遅延することなく予定どおり導入できた。	
		＊	(4) 実施期間（事業終了までに要する期間）	報告書等の提出時期を把握しきれてなかった。	要綱等を読み具体的に提出日を決めておく。
	＊		(5) 事業運営のノウハウ（進捗管理、資金管理等）	採択された場合を想定し資金を管理し、業者と情報を共有し進捗管理ができた。	
			(6) 設計仕様の変更（主に建築）		
			(7) その他		
外部要因		＊	(8) 受益者の規模・ニーズ	当初は、利用者の現況から1日あたり6名（月150名）の利用を想定していたが、特殊浴槽の利用者が3名減となり目標達成に至らなかった。職員は、特殊浴槽の安全性が確保され入浴介助時の負担が軽減された。	利用者の身体状況は変化するので、特殊浴槽の需要は増えると予想している。ただし、感染症の流行を含め、利用者がどの程度デイサービス利用を継続できるかを予想した計画を立てる。
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者（受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生（地震、洪水等）		
			(13) 同様の技術開発		
		＊	(14) 競合するサービス・事業の出現	近隣に通所型サービス事業所も増え利用率が低下している。	特殊浴槽の入れ替えを含め事業所の特色を宣伝し利用者増に向け取り組む。
	＊		(15) その他	施行業者と事前確認を細かくできたことから、利用者の入浴を中止することなく特殊浴槽の導入工事が完了できた。	
			(16) 特になし		

新規特殊浴槽導入後のアンケート結果

回答方法：口答アンケート

回答期間：2026 年 9 月 14 日～9 月 19 日

回答者数：9 名

【質　問】新規特殊浴槽の入浴介助で感じたこと、気づいたことは何ですか。

【職　員】

・浴槽の表示パネルが見やすく、操作しやすい。

・浴槽から貯湯タンク間のお湯の移動が以前より早く、利用者を待たせる時間が短縮された。

・搬送車の出入りがスムーズで介助しやすい。

・表示パネルが故障していて温度や入浴時間の確認に時間をとられていたが、改善された。

・機器のエラーもなく不安が解消され、表示パネルで温度や入浴時間も確認できるので入浴介助の業務が改善された。

・利用者も喜んで快適に気持ち良く入浴されている。

・新規特殊浴槽を導入したことで全体的な業務効率化が図れた。

【質　問】お風呂が新しくなりました。入浴して感じたこと、気づいたことは何ですか。

【利用者】

・ジェット噴流がとても気持ちが良いです。

・新しいお風呂は気分が良いね。

・とてもいい湯です。